

第3章 教育研究組織

中期目標

本学の建学の精神及び理念・目的を実現するために適切な教育研究組織を設置するとともに、社会の要請に応え教育研究組織の一層の充実・発展を図る。

また本学は、平成30年度に初めて東京地域以外に地域に根ざした医療専門職を育成するため和歌山看護学部及び千葉看護学部を新設する。

これに伴い、大学における看護師養成数について全国的に大規模校となるがそれぞれの学部の教育目的・教育目標における独自性を発揮し先進的な取組を積極的に推進していく。この取組において、我が国の大学における看護師養成教育の充実・発展に寄与する。

中期計画

【5】本学の建学の精神、理念・目的の実現、社会の要請に対応するために適切な教育研究組織等を整備していく。また、教育研究組織の適切性及び整備状況について定期的に自己点検・評価による検証及び外部有識者による評価を実施するとともにその結果を踏まえ教育研究組織の整備・充実を図る。

①医療保健学部、大学院医療保健学研究科

NTT東日本関東病院との連携協力により、医療保健学部(看護学科、医療栄養学科、医療情報学科)及び大学院医療保健学研究科修士課程・博士課程において、設置の趣旨を十分活かし実践的な教育研究を着実にを行うとともに、教育研究体制の整備・充実を図る。

②東が丘・立川看護学部、大学院看護学研究科

独立行政法人国立病院機構との連携協力により、東が丘・立川看護学部及び大学院看護学研究科修士課程・博士課程において設置の趣旨を十分活かし教育研究を着実に履行するとともに、国立病院機構との連携協力を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る。

③和歌山看護学部(平成30年度開設)

和歌山県、和歌山市及び日本赤十字社和歌山医療センターとの連携・協力により、和歌山看護学部において設置の趣旨を十分活かし教育研究を着実に履行するとともに、和歌山県、和歌山市及び日本赤十字社和歌山医療センターとの連携を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る。

④千葉看護学部(平成30年度開設)

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)との連携・協力により、千葉看護学部において設置の趣旨を十分活かし教育研究を着実に履行するとともに、JCHOとの連携を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る。

⑤各看護学科の独自性を踏まえた教育研究の先進的な取組

平成30年度に看護師養成教育を4学部(医療保健学部、東が丘・立川看護学部、和歌山看護学部、千葉看護学部)で実施する体制となるが、それぞれ教育目的・教育目標に基づく独自性を活かしつつ、対話と連携を図り、相互に刺激し合い切磋琢磨して行く中で、多様性を尊重し本学の強み・特色を発揮しつつ教育研究を高度化し先進

的な取組を推進していく。この取組において我が国の大学における看護師養成教育の充実・発展に寄与していく。

⑥国際的通用性の高い教育研究の組織的な推進

本学の建学の精神及び教育理念に基づき、実践を重視した教育研究の充実・発展を図るため「国際交流に関する基本方針」により国際的通用性の高い教育研究を組織的に推進する。

具体的には、国内外において医療の国際化や多様性が進む中、海外先進国のチーム医療や地域医療における実践的な学びを通して、高度な専門性等を養う教育研究を推進する。

- ・国際交流センターにおいて、以下の取組を推進する。
 - ・学生及び教職員を海外実習や海外研修・学会等に派遣
 - ・国際交流協定を締結し海外大学等から留学生・教職員を受入
 - ・国際共同研究プロジェクトへの参画
- ・感染制御学教育研究センターにおいて、医療現場における地球規模の関心となっている感染の制御に関わる教育研究の充実・発展を図るため、基礎・応用研究を行い国内外の感染制御に貢献するとともに、感染制御を目指した新たな学問拠点の形成を図る。さらに大学院の教育研究において医療現場等の感染制御関連分野で活躍する人材の育成を図る。

取組状況及び課題等

〔全体〕【企画部】

建学の精神及び理念・目的を実現するため、必要な教育研究組織を設置するとともに、社会からの要請に応じて教育研究組織の充実・発展を図っております。

平成17(2005)年度の創設時は、医療保健学部(看護学科、医療栄養学科、医療情報学科)でスタートしましたが、その後、大学院医療保健学研究科修士課程・博士課程、東が丘・立川看護学部、大学院看護学研究科修士課程・博士課程、千葉看護学部、和歌山看護学部、助産学専攻科を設置して実践的な教育研究体制を整備し、それぞれの理念・目的に基づき教育研究活動等を着実に履行しております。(第4章参照)

令和2年度においては、東が丘・立川看護学部のこれまでの実績及び教育ニーズを踏まえて発展的改組転換を行い、新たに東が丘看護学部、立川看護学部としてスタートするとともに、和歌山看護学部に大学院和歌山看護学研究科を新設しております。

令和3年度においては、本学にとって4番目の大学院となる、大学院千葉看護学研究科を新たに設置いたしました。

また、国際的通用性の視点から、これらの教育研究活動等の充実に資するため国際交流センター及び感染制御学教育研究センターを設置しております

(資料3-1<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1303001.pdf>、

3-2<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1304001.pdf>)。

このほか、教育研究活動等に資する全学組織として放射線看護研修センター、産後ケア研究センター、情報教育研究センターを設置しております

(資料3-3<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1305001.pdf>

3-4<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1307001.pdf>、

3-5<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1306001.pdf>。

さらに、開学以来学則に規定され、その活動が期待されていた総合研究所を、学長が所長となり新たな体制で稼働させたことにより、その成果として企業等との共同研究件数が飛躍的に増加し外部資金の獲得に結びついております。

〔医療保健学部、大学院医療保健学研究科〕

○ 医療保健学部においては、NTT 東日本関東病院との連携協力により、医療保健活動のチーム化を踏まえ、他の専門職と協調して活動を遂行できる、優れたチーム医療人の育成のため、設置の趣旨を生かした実践的な教育に取り組んでおり、看護学科、医療栄養学科、医療情報学科の各教授会、学部教務委員会、学部等運営会議において教育内容・方法等に関し審議を行い、学士課程教育の改善・充実を図るとともに教育の質の向上に努めております。

○ 医療保健学研究科においては、主に臨床経験を持つ社会人を大学院生として受け入れており、学際的・国際的な視点から医療保健学を教授し臨床現場における卓越した実践能力、研究・教育・管理能力を持った高度専門職業人の育成に、令和3年度現在、修士課程8専門領域分野、博士課程3専門領域分野において取り組んでおります。

また、研究科教授会及び学部・研究科運営会議において、研究教育内容・方法等に関し審議を行っており、大学評価(認証評価)の指摘を踏まえ研究科独自の自己点検・評価委員会及びFD委員会を設置し組織的に学問の動向等を踏まえた研究教育体制の改善・充実に努めております。

(資料 3-6<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1201005.pdf>、
<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1202005.pdf>、
<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1203005.pdf>、
<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1204002.pdf>、

3-7<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1201006.pdf>、
<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1202006.pdf>、
<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1203004.pdf>)

〔東が丘・立川看護学部、東が丘看護学部、立川看護学部、大学院看護学研究科〕

○ 東が丘・立川看護学部においては、(独)国立病院機構との連携協力により、看護実践能力、自己啓発能力、キャリア開発能力を備え高度な判断と実践ができる国際的視野を持った tomorrow's Nurse の育成に取り組んでおり、機構本部と運営協議会を設置し、教育研究活動等に関し意見調整を行うとともに、主たる実習機関である同機構東京医療センター及び災害医療センターと臨床実習に関し意見交換を行っており、これらを踏まえ、学部教授会において教育内容・方法等に関し審議を行い学士課程教育の改善・充実を図るとともに教育の質の向上に努めておりますが、令和2年度において、発展的改組転換を行い、臨床看護学コース及び災害看護学コースの教育課程を基に、「東が丘看護学部」及び「立川看護学部」として新たにスタートしたことにより、東が丘・立川看護学部は募集停止とし、両コースの入学生が全員終了後に廃止の予定となっております。

- 新設の東が丘看護学部においては、寛容と温かみのある人間性と高度な看護実践能力、チーム医療推進力、国際的視野を持ち、あらゆる医療の現場で自ら判断・行動し実践できる tomorrow's Nurse に一歩近づくことを目指しており、そのため自己啓発能力、キャリア開発能力を培い新たな現場で能力発揮可能な人材を目指し取り組んでおります。
- 令和 2 年度に発足した立川看護学部においては、あらゆる状況や場で生活している人々に最善の看護を提供できる「地域から信頼される Nurse」を目指しています。そのために、「健康支援への看護実践能力」「災害対応能力」「看護探求能力」の 3 つの中核能力を兼ね備えた看護師の育成に取り組んでいます。
- 東が丘・立川看護学部は、令和2年度の文部科学省・日本学術振興会の科学研究費の採択率で50%と学内トップの実績をあげ、翌令和3年度も東が丘看護学と立川看護学部を合算した採択率の実績は、引き続きトップを維持しており、教育職員が研究に真摯にそして積極的に取り組む姿勢が引き継がれております。
- 大学院看護学研究科においては、高度な判断力、実践力及び教育研究・管理能力を通して医療・保健・福祉に対する時代・社会のニーズに的確・迅速に対応し、チーム医療を支えることができる高度実践看護職の育成とともに、研究・教育の探求を通して看護学の発展に寄与することができる人材の育成に修士課程4コース及び博士課程において取り組んでおります。

修士課程の高度実践公衆衛生看護コースは令和元年度の新設であり、学士課程教育等を修得し大学院課程教育を受けた保健師の育成に取り組んでおります。また、高度実践看護コースは、厚生労働省が認定する 21 特定行為区分すべての特定行為を実施できる診療看護師 (NP) の育成に取り組んでおり、これまでの診療看護師 (NP) の輩出は 204 人です。特定行為研修管理委員会で認定された修了者と同数ですが、全国の 21 特定行為区分別の修了者の延べ人数 25,295 人 (令和 3 年 9 月現在) に対する本課程修了者のシェアは約 17% となっております。大学評価 (認証評価) においても高い評価を受けました。(以下引用)「大学の理念・目的として、時代の求める豊かな人間性と教養を備え、社会が抱えるさまざまな課題に対し、新しい視点から総合的に探求して解決できる人材の育成等を掲げており、これを達成するために看護学研究科修士課程に高度実践看護コースを設け、診療看護師 (NP) の育成に取り組み、厚生労働省から「特定行為に係る看護師の研修制度」の指定研修機関として認定されている。また、独立行政法人国立病院機構との連携体制を基盤に、修了生を診療看護師 (NP) として全国の基幹病院に輩出しており、社会の要請に応えた専門職の育成に取り組む教育研究組織を編成していることは評価できる。」と高く評価されております。

また、研究科教授会や臨床教授会において医療保健に対する社会・時代のニーズに実践的に対応できる高度実践看護職を育成するため、教育環境 (カリキュラム、教員の質、施設設備等) の充実に努めており、大学評価 (認証評価) の指摘を踏まえて学部と合同の自己点検・評価委員会及び FD 委員会を設置し、令和 3 年 3 月には、FD マップを発行し、組織的に教育研究体制の改善・充実に努めております。

今後においても東京医療センター・災害医療センター等を主たる実習施設としつつ、令和 4 年 1 月には国立成育医療研究センターとも連携協定を締結したことから、こうした連携協力を一層強化し教育・研究を推進してまいります。

〔千葉看護学部、大学院千葉看護学研究科〕

- 千葉看護学部においては、確かな情報収集能力と倫理観、高度な看護アセスメント能力と看護技術を持ち、地域で暮らす人々の生活を見据えた看護ケアを提供できる看護職の育成に取り組んでおります。

地域医療機能推進機構(JCHO)との連携協力において、船橋中央病院をはじめとする5つのJCHO病院において基礎看護援助、臨床看護、母性小児看護、老年在宅看護および看護統合の全実習を行うとともに、医学・医療概論、疾病治療論、協働実践演習等の科目JCHO本部や各病院より講師を招聘し、協働活動を通じた貢献し合う関係性の構築に取り組んでおります。

船橋市についても、公衆衛生看護援助論等の科目において市役所担当課や保健所等現場担当者を講師に招聘する等連携するとともに、船橋地区において行われる老人体操クラブや母子支援活動への参加を通して学ぶ地域保健活動演習を行い、地域で暮らす人々の生活を見据えた看護ケアを提供できる能力の育成に取り組んでおります。

令和3年度は千葉看護学部が完成度を迎え、初めての卒業生(103名)を輩出しました。また、新たに大学院千葉看護学研究科を設置し、院生9名(定員8名)が入学する等、地域医療に貢献できる看護人材の育成に努めて参りました。今後は、引続きJCHO及び船橋市と協働し、その成果の可視化をはかることで、より一層の連携を推進して参ります。

〔和歌山看護学部、大学院和歌山看護学研究科〕

- 和歌山看護学部においては、豊かな人間性と倫理観、高い看護実践能力を持ち、発展的に地域社会の看護を創造できる看護職の育成に向けて、各専門領域間で教育内容等の課題を共有し検討する等教育の質向上に努めております。具体的には、和歌山県知事、和歌山市長等県内各方面から講師を招聘し、地域の理解を深める科目(わかやま学)や地域のボランティア活動を促す科目を設定して和歌山の医療を担っていく学生としての自覚が促されるよう取り組んでおります。

また、日赤和歌山医療センターとの実習協議会を通じて、学士課程教育における実習教育の内容・方法等について説明と意見交換により協力体制を確認し教育の質の向上に努めております。

今後も完成年度(令和3年度)に向け着実に教育研究活動等を推進してまいります。

- 令和2年度に日赤和歌山医療センターキャンパスにおいて開設した和歌山看護学研究科においては、高度な判断力、実践力及び教育研究・管理能力を通して、医療・保健・福祉に対する時代・社会のニーズに的確・迅速に対応し、和歌山の地域医療及びチーム医療に貢献できる高度実践看護職の育成とともに、地域と看護学の発展に寄与することができる人材の育成を修士課程において取り組んでおります。

地域住民の健康支援及び療養生活支援を担うためには包括的な視野をもつ高度実践看護職が必要とされます。そのために複数の教員でそれぞれの専門としている研究・活動業績を反映することで内容の充実を図っております。初年度には定員を満たす12名の学生が学びを始めており、また完成年度の令和3年度も定員を充足しております。看護専門職の大学院教育の場が2か所しかない和歌山県において、今後でもできるだけ多くの

高度実践看護職を送り出すために教育・研究を推進してまいります。

- 令和4年度に地域母子保健の向上に寄与し、時代の変化に応じて助産を創造できる助産師の育成を目的に、和歌山助産学専攻科を開設いたします。和歌山県の助産師教育の現状と医療機関の地域偏在、勤務する助産師の4割以上が50歳以上であるという背景があり、助産に関わる高度な知識や技術をもち、和歌山県の周産期医療をけん引し、リーダー的な存在として活躍できる人材が必要として設置を進めてまいりました。本学と連携する日本赤十字社和歌山医療センターの経験豊富な医療従事者が多くの医学・看護学の講師、実習指導等の役割を担うことが可能であり、県内の病院、保健所、市町村保健センター、助産所等の実習施設での学びが可能です。令和3年度に入学試験を実施し、定員10名のところ、8名が入学予定です。今後は定員を充足し、着実に高度な実践勅を身につけた助産師を送り出すために教育を推進してまいります。

〔助産学専攻科〕

- 助産学専攻科においては、助産師として周産期のみならずライフスタイル全般にある女性、乳幼児、家族、地域社会を対象に、全ての女性に寄り添い女性の内なる力を信じ人間性を重視したケア・支援を行う専門職の育成に取り組んでおります。特に問題解決能力、判断及び実践力を基盤にし、そのスキルをもって母子保健の向上に貢献できる助産師の育成を目指しております。修業年限は1年間であり、看護師等の資格を有する医療従事者等が助産師資格の取得を目的に入学します。令和3年度修了生の助産師国家試験合格率も100%となっております。

〔全学センター〕

- 国際交流センターにおいては、実践を重視した教育研究の充実・発展を図るため国際的通用性の高い教育・研究を組織的に推進するとともに「国際交流に関する基本方針」を定めて、海外派遣・海外研修の積極的な推進、海外からの積極的な受入れ、海外大学等との国際交流協定の締結を推進することにより、国際化の推進を図ることとしております(資料3-8<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0202016.pdf>、3-9<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0802001.pdf>、3-10)。
なお、国際交流事業の推進に向けては、以下のa)～c)に取り組んでおります。
 - a) 学部生のハワイ研修及びオーストラリア研修の実施(第9章参照)
 - b) 教員・院生の意識啓発を図るため、海外の学術集会等への参加及び学会誌等への研究論文等の積極的な投稿の促進
 - c) 海外の専門家や海外で活躍した日本人の専門家等を招聘して、講演会やワークショップなどを実施
- 感染制御学教育研究センターにおいては、地球規模で関心となっている薬剤耐性菌や医療関連感染症の予防と制御に関わる教育研究の充実・発展に資する基礎・応用研究を行い、国内外の感染制御に貢献するとともに感染制御を目指した新たな学問拠点の形成を図ること、また大学院の教育研究において医療現場等の感染制御関連分野で活躍する人材の育成に取り組んでおります。(第9章参照)
- 放射線看護研修センターにおいては、日本看護協会から認定を受けた「がん放射線療

法看護認定看護師養成課程」を開設し、医療領域等における放射線利用を理解し放射線利用に伴う被爆の最適化等の判断ができ、国民や患者等の放射線利用に伴う安全、安心の確保に専門職として貢献できる看護師の養成に取り組んでいます。

これまでの放射線療法看護認定看護師の資格取得者は、平成30年度9人、令和元年度10人、令和2年度8人となっております。但し、令和3年度と令和4年度は応募者の減少と指導教員手配の都合で休講となっております。

教育研究組織の適切な整備【企画部】

本学は、建学の精神及び理念・目的に基づき、社会の要請に応じて我が国最先端医療を実施する中核医療機関との連携協力により教育研究組織を整備し、教育の質を確保しつつ社会に有為な医療人を養成し送り出してきており、整備に当たっては、連携機関との意見交換等多面的な点検・評価、検証を実施しその意見を踏まえ真摯に改善・改革に取り組んでおります。こうした我が国最先端医療を実施する大規模医療機関との連携協力による実践的教育は本学の強み・特色となっております。

<NTT 東日本関東病院>

医療保健学部(看護学科、医療栄養学科、医療情報学科)が連携協力するNTT 東日本関東病院においては、早くから「チーム医療」に取り組んできた実績があり医療専門職の協働の実際について身をもって体験できることが大きな特徴です。また診療システムを我が国で初めて電子化した最先端医療機関でもあり実習先として理想的であると考えております。

<独立行政法人国立病院機構>

東が丘・立川看護学部(看護学科)が連携協力する独立行政法人国立病院機構においては、日本最大規模の病院ネットワーク(全国140病院で組織)を持ち、地域医療に貢献する疾病や政策医療に取り組んできた実績と歴史があり、同機構の東京医療センター及び災害医療センター・村山医療センターにおいて特徴的な医療や様々な症例を体験できる最適な実習先であると考えております。

<独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)>

千葉看護学部が連携協力する独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)は、5事業5疾病の他、リハビリテーション、その他地域において必要とされる医療及び介護を提供する機能の確保を図ることを目的とした全国に57の病院と、付属施設として介護老人保健施設、訪問看護ステーション等を有する大規模な組織であり、急性期医療ばかりでなく地域包括ケアに貢献できる人材を育成するうえで必須な知識と経験とを共有できる貴重な提携先と考えております。

<日本赤十字社和歌山医療センター>

和歌山看護学部が連携協力する日本赤十字社和歌山医療センターにおいては、救急・災害医療を含む高度医療を提供し、また国際救援活動の拠点としても活動しており、高度医療チームの一員として実践力と知力を兼ね備えた看護師の育成に最適な学習環境が提供される実習先と考えております。

図表 東京医療保健大学 学部・学科・大学院研究科等の一覧(R3.4.1現在)

学部・大学院研究科等	学科、領域等の名称	入学定員	収容定員	所在地
医療保健学部 (平成17年4月開設)	看護学科	100	400	品川区東五反田 4-1-17
	医療栄養学科	100	400	世田谷区世田谷 3-11-3
	医療情報学科	80	320	
東が丘・立川看護学部 (平成22年4月開設) (平成26年4月名称変更) (令和2年4月募集停止)	看護学科 臨床看護学コース 災害看護学コース	200	800	目黒区東が丘 2-5-1 立川市緑町 3256
東が丘看護学部 (令和2年4月開設)	看護学科	100	400	目黒区東が丘 2-5-1
立川看護学部 (令和2年4月開設)	看護学科	100	400	立川市緑町 3256
千葉看護学部 (平成30年4月開設)	看護学科	100	400	船橋市海神町西 1-1042-2
和歌山看護学部 (平成30年4月開設)	看護学科	90	360	和歌山市東坂ノ上丁 3 (和歌山市小松原通 4-20)
計		670	2,680	
大学院医療保健学研究科 修士課程 医療保健学専攻 (平成19年4月開設)	看護マネジメント学(19年4月) 感染制御学(19年4月) 医療栄養学(19年4月) 医療保健情報学(19年4月) 助産学(24年4月) 周手術医療安全学(25年4月) 滅菌供給管理学(26年4月) 看護実践開発学(27年4月)	25	50	同上
大学院医療保健学研究科 博士課程 医療保健学専攻 (平成21年4月開設、3年制)	感染制御学(21年4月) 周手術医療安全学(25年4月) 看護学(27年4月)	4	12	同上
大学院看護学研究科 修士課程 看護学専攻 (平成22年4月開設)	高度実践看護コース(22年4月) 高度実践助産コース(24年4月) 高度実践公衆衛生看護コース(31年4月) 看護科学コース(26年4月)	30	60	目黒区東が丘 2-5-1
大学院看護学研究科 博士課程 看護学専攻 (平成26年4月開設、3年制)	—	2	6	同上
大学院和歌山看護学研究科 修士課程 看護学専攻 (令和2年4月開設)	—	12	24	和歌山市小松原通 4-20
大学院千葉看護学研究科 修士課程 看護学専攻 (令和3年4月開設)	—	8	16	船橋市海神町西 1-1042-2
計		81	168	
助産学専攻科 (平成21年4月開設、1年制)	—	15	15	品川区東五反田 4-1-17
合 計		766	2,863	

海外研修の実施状況（令和元年度～令和3年度）

<全学合同海外研修> 毎年度2回、9月（オーストラリア）と3月（ハワイ）にて実施。各学部・学科から希望する学生・大学院生名程20度が参加。R2年度から現在まではオンライン研修。

実施年度	訪問地	訪問先 (医療施設、大学等)	内容
令和3年度	(3回グリフィス大学オンライン研修) オーストラリア・ゴールドコースト市 オンライン訪問 R3. 9. 13(月)～ 9. 21 (火)	○グリフィス大学ゴールドコーストキャンパス (オンライン訪問) (COVID-19によるパンデミックのため渡航禁止が継続し現地研修は中止。 その代替として第3回目となるグリフィス大学オンライン研修を実施した。)	事前研修： ・本学独自のオリエンテーション ・講義：オーストラリアの医療と日本の医療 本研修： ・オンライン研修・授業に関するGUによるオリエンテーション ・グリフィス大学およびゴールドコースト市の紹介 ・英語の授業（医療・保健・オーストラリアの文化等に関連する内容。「読む」「書く」「聴く」「話す」および「文法」を盛り込んだ授業内容） ・講義1：オーストラリアの医療制度及びオーストラリアの医療専門職について ・講義2：オーストラリアの看護・看護師 ・講義3：オーストラリアの管理栄養 ・グリフィス大学留学生たちとの交流 ・プレゼンテーション：オーストラリアのワイルドライフ
	(オンラインハワイ研修) ハワイ州ホノルル市 オンライン訪問 R4. 3. 21 (月)～3. 17 (木)	シャミナード大学（ハワイ州ホノルル市）（オンライン訪問） (COVID-19によるパンデミックのため渡航禁止が継続し現地研修は中止。 その代替として、今年度初めて、シャミナード大学を中心としてオンラインハワイ研修を実施した。)	事前研修：オリエンテーション／英語での発表の準備／事前講義：移植医療について 講義1：シミュレーションと看護教育 講義2：ハワイ人の食事と健康 講義3：アメリカの高齢者医療 講義4：在宅医療におけるITの活用 講義5：アメリカの病院における臓器移植 講義6：アメリカの管理栄養士の仕事 プレゼンテーション 交流：ハワイと日本の文化について、それぞれの学生が発表 ハワイの自然と文化：バーチャルツアー2本

実施 年度	訪 問 地	訪 問 先 (医療施設、大学等)	内 容
令和 2 年度	<p>(第1回グリフィス 大学オンライン研修)</p> <p>オーストラリア・ ゴールドコースト市 オンライン訪問 R2. 9. 23(水)～ 9. 25(金)</p>	<p>○グリフィス大学ゴールド コーストキャンパス (オンライン訪問)</p> <p>○ホームステイ (オンライン訪問)</p> <p>(COVID19 によるパンデミック により渡航不可となり現地研 修は中止。その代替としてオ ンラインでの研修を実施し た。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修・授業に関する オリエンテーション ・英語の授業 (医療・保健・ オーストラリアの文化等に 関連する内容。主として「読む」 「書く」が中心) ・オーストラリアの医療制度と COVID19 への対応 (講義) ・グリフィス大学留学生とのオン ライン交流 ・オンラインによるホームステイ を通じ異文化理解・交流・英語 力の向上を図る
	<p>(第2回グリフィス 大学オンライン研修)</p> <p>オーストラリア・ ゴールドコースト市 オンライン訪問 R3. 3. 17(水)～ 3. 23(火)</p>	<p>○グリフィス大学ゴールド コーストキャンパス (オンライン訪問)</p> <p>(COVID19 によるパンデミック のため渡航禁止が継続し現地 研修は中止。従来はこの時期 はハワイ研修を実施している が、ハワイでのオンライン 研修も不可となったため、 その代替として本年度2度目 のグリフィス大学オンライン 研修を実施した。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修・授業に関する オリエンテーション ・グリフィス大学およびゴールド コースト市の紹介 ・英語の授業 (医療・保健・ オーストラリアの文化等に 関連する内容。「読む」「書く」 「聴く」「話す」および「文法」 を盛り込んだ授業内容) ・講義 I: オーストラリアの医療 制度と COVID19 への対応 ・講義 II: オーストラリアの 医療専門職の教育と実践— 看護・看護師および栄養・栄養 士について ・グリフィス大学留学生たちとの 交流

実施 年度	訪 問 地	訪 問 先 (医療施設、大学等)	内 容
令和 元年度	(オーストラリア 研修) オーストラリア・ ゴールドコースト 市 R1.9.11(水)～ 9.20(金)	○グリフィス大学 ○ゴールドコースト・ プライベート病院 ○高齢者ケアセンター ○カランビン野生保護園 ○ホームステイ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業 ・ オーストラリアの医療制度 ・ オーストラリアの栄養 ・ グリフィス大学留学生との 交流 ・ 病院見学・研修 ・ 高齢者ケアセンター見学およ び入居者慰問・交流 ・ オーストラリアの野生動物と 保護について理解を深める ・ 全期間ホームステイ：ホーム ステイを通して異文化理解を 深め、英語力の向上も図る
	R2.3.15 から 8 泊 9 日で予定していたハワイ研修は、コロナウイルス感染症発生のため 急遽中止とした。		